

平成30年度第1回柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事概要

- 1 日 時 平成30年10月30日（火） 午後3時から午後5時まで
- 2 場 所 柏崎市役所 第二分館2階 第6会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 小林会長、根本副会長、池谷委員、西川委員、富永委員、三嶋委員、村田委員、矢島委員、山崎委員、山田委員
 - (2) 庁 内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、福祉保健部長、子ども未来部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、消防長、教育部長、会計管理者、防災・原子力課長、議会事務局主幹
 - (3) 事務局 企画政策課長、課長代理、企画班係長、企画班係員

4 会議概要

- (1) 開会 総合企画部長から開会挨拶
- (2) 会長挨拶 小林会長から挨拶
- (3) 柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況説明 企画政策課長から説明
- (4) 議事

柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理報告書（案）に関する質疑、応答委員により以下のとおり審議が行われた。

発 言 者	発 言 概 要
第1節 地域産業の振興を図り雇用場をつくる	
基本的方向1 雇用対策の強化を図る	
委 員	就職支援について、介護職員就職支援事業では12人に対し、看護師就職支援事業では60人に対しそれぞれ助成しているが、助成金の額が違うように思われるが、どのような積算になっているのか。
福祉保健部長	介護職員就職支援事業では、昨年度までは介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の有資格者が就職した場合に、それぞれ20万円助成していたが、30年度から拡充し、初任者研修修了者に5万円、実務者研修修了者に10万円の助成もしている。看護師については、市内病院に就職した方に20万円、市外から転入し、市内病院に就職した方には30万円助成している。介護職も有資格者で市外からの転入者には30万円を助成しており、基本的には、介護士、看護師とも同額の就職支援をしている。
委 員	介護職員が不足していると聞いている。家族も施設への入所を希望しているが、300～400人待ちである。ベッド数が限られている中、介護職員が増えていけば充実していくと思われる。
委 員	フォンジェにU・Iターン情報プラザが移設されたが、フォンジェの地下1階にはワークサポート柏崎もある。これらの施設は、連携しているのか。また、U・Iターン情報プラザの利用状況を教えてほしい。
総合企画部長	現在、フォンジェにあるU・Iターン情報プラザのサテライトは、ワークサポート柏崎との連携を見込んでいたが、お客様がお越しにならない状況にある。このため、来年度に向け、市民にお越しいただき、雇用にも結びつけられるように設置の在り方を検討しており、来年の7月頃から場所を変更して運営して

- いく計画を進めている。
- 委 員 市の職員は、東京都内にあるU・Iターンの情報が集まる場所にどれ位の頻度で足を運んでいるのか。
- 総合企画部長 東京都内にあるU・Iターンに関連する施設に職員が出向くようになったのは、1～2か月前からである。それまでは、民間事業者に委託し、主に首都圏の大学に出向いて、就職先の相談などを行っていた。1～2か月前から、出張の折には必ずU・Iターン関連施設に行くよう指示しており、最近では、1日に1時間程度の相談を4人程度実施している。先ほどU・Iターン情報プラザの設置の在り方について申し上げたが、首都圏に足場をつくり、そこと連携を取る形で柏崎駅前にも施設を設け、2つの拠点を持つことを検討している。首都圏をU・Iターンのターゲットとしており、首都圏で最低でも月2回以上の活動をしていきたいと考えているので、御理解願いたい。
- 委 員 首都圏でのイベントにて話をする機会があったが、他の自治体の職員も複数で参加していた。また、参加者は、U・Iターンに強い意志を持っている方が多かった。他の自治体では、具体的な話になると、自治体に来てもらい相談するよう案内しており、柏崎市でも同様な取組があれば良いと思っていた。
- 委 員 産業大学へは県外から多くの学生が来ており、4年生に就職について聞いてみると、地元へ帰るとの声を多く聞く。しかし、就職先が決まっておらず、就職に前向きでない学生も多い。市内にも魅力ある企業や仕事が多くあるが、知らない学生も多くいるのではないかと感じている。2大学の就職支援相談員は学生に対しどのような働きかけをしているのか。
- 産業振興部長 就職支援相談員の配置は、当初、緊急雇用対策として国の補助事業で実施していたが、現在では市の単独事業として継続し、2大学が雇用する就職支援相談員の人件費等に対し助成し、それぞれの大学で独自に活動していただいている。また、3年ほど前からは、地元就職に対する施策を行う場合に上乗せ助成もしている。年により地元就職の割合は変動するが、今年度の市内就職率は、内定段階ではあるものの17.6%であり、一昨年度よりも増えている。ご指摘のとおり、市内にどんな企業があるのか、学生に説明していく必要があり、大学に情報提供し連携していきたい。また、雇用促進協議会では、市内外の大学生に対し、毎年5月に地元企業の説明会を実施している。
- 委 員 来月、産業大学において地域金融論と題して講義を行う予定である。この中で、柏崎には魅力ある企業が多くあることや、市の施策に関しても話してみたいと考えている。このように、大学側も、学生に地域のことを知ってもらう取組をしていると思う。
- 委 員 先日、市内企業と県内大学との面談会があったが、有効な手立てと感じた。大学生が、大企業は別として、就職を目的に柏崎に移り住むことは非現実的だと思われ、柏崎に帰ってくるとか、柏崎に生活の基盤があるから働こうと思うことの方が現実的と思われる。このため、企業の魅力を合わせながら、企業説明会等にまち全体で取り組んでいくことが必要であり、この流れを強めていった方が良いと思う。企業対学生、企業対大学という接触の頻度を、まち全体で高めていく事業があったら良いと思う。

第1節 地域産業の振興を図り雇用の場をつくる

基本的方向2 地域産業の振興を更に進める

- 委 員 目標値に製造品出荷額における付加価値額を掲げている。これを達成するためには、企業努力が必要なのは言うまでもないが、外部環境として、今後、消費

	税増税、東京オリンピック・パラリンピックがある。あるコンサルタントの話では、製造業のピークは、今年、来年という予測もある中で、非常に高い目標値と思われる。この目標に向けて、企業と市が一体となって取り組んでいくことになり、市も相当努力しなければならないと思うが、今後の施策について聞かせていただきたい。
産業振興部長	平成30年6月に生産性向上特別措置法が成立した。中小企業と大企業を比べると、労働生産性や賃上げ率に格差が広がりつつある中、中小企業を支援するため、設備導入に係る補助金を創設した。市においても、国の施策に呼応した形で、設備導入に当たり3年間、償却資産に対する固定資産税を課税免除する条例を6月議会にて可決いただき、生産性向上に取り組んでいる。また、これまで5年ほど中小企業の設備投資補助金を行ってきたが、国にものづくり補助金があることから、来年度以降、人材育成や新製品の開発など新しいチャレンジに取り組む方への支援に特化していきたいと考えている。
委 員	消費税増税の際には、リバウンドを止めるカンフル剤が必要だと思うので、是非取り組んでいただきたい。
委 員	地域エネルギービジョンに関わったが、民間事業者の参入は、現状ではハードルが高く、時間がかかると思う。公的支援と民間の力を引き出すことを、合わせてやらないと時間がかかる。市として、今後、どのように民間の参入を引き出していくのか、アイデアがあれば教えてほしい。
総合企画部長	次世代エネルギー、再生可能エネルギー等を地元で発電し、産業化し、エネルギー的にも料金的にも地域の皆様に還元していくのが目標であり、現在、ロードマップの素案を作っている。その内容は、2022年に地域エネルギー会社を作るために、民間への支援や研究会の設立のほか、県や周辺自治体との連携をしていくことを想定している。来年には研究的組織を立ち上げ、2020年に民間や他の自治体にも参画をお願いしていく。さらに、2020～2021年に、金銭的部分も含めて具体的な検討を行い、2022年から地域エネルギー会社を作りたい。最終的な目標は、さらに5年後に市民の皆様にエネルギーや料金として還元したいと現時点では考えている。
委 員	ロードマップに期待しており、是非、着実に進めていただきたい。
第2節 子どもを産み育てやすいまちをつくる	
基本的方向1 地域で子育てを支援する	
委 員	近年、育児放棄、児童虐待のニュースを見聞きする。子育て短期支援事業とはどのような施策か。
子ども未来部長	今年度から開始しており、一時的に療育できない家庭から児童を市が委託している施設にて一定期間預かる事業である。これまで4件相談があり、1泊2日里親が預かった事例もあった。今後、事業の周知をしていきたい。
委 員	ハッピーパートナー企業とはどんなものか。また、目標値を登録企業数40社以上としているが、取組の波及について教えていただきたい。
総合企画部長	ハッピーパートナー企業は、県が行っている施策である。男女が共に働きやすく、仕事と家庭を両立できるよう職場環境を整え、女性労働者の登用、育成に積極的に取り組む企業を、新潟県男女共同参画推進企業とし、愛称としてハッピーパートナー企業と呼んでいる。例えば、新潟県建設工事入札資格審査の加要件や県庁の物品等調達の対象企業になるほか、日本政策金融公庫の地域活性化雇用促進企業の制度融資が利用できるなど、企業側にもメリットがあり、県内では946事業所が登録している。引き続き、企業側にメリットを伝えて周

- 知していく必要があり、事業主や企業の担当者にセミナーの案内をしているが、まだまだ浸透していない現状にある。
- 委員 労働人口が減少していくと見込まれる中、女性の労働力が最も期待される場所である。目標値には、就業の比率や企業数などが挙げられる傾向にあるが、女性が活躍できる職種や場所の提供が、目標指数になっても良いと考える。
- 委員 家庭環境や働き方は様々であり、男性が育児休暇を取得することよりも、家庭における満足度が重要であり、そうした目標指数があっても良い。

第2節 子どもを産み育てやすいまちをつくる

基本的方向2 若者の出会いの場をつくる

- 委員 クッキング婚活の取組により34組のカップルが成立したことは評価できる。これに関連し、ぎおん柏崎まつりの民謡流しは、一体感が出ており、各地域からバスも出ているし、お酒も飲めてテンションも上がり、開放的な雰囲気になっている。このため、終了後に、市民プラザで大合コン大会を実施すれば、盛り上がり、マッチングも進むのではないかと。また、地域の運動会など人が集まっている際に、婚活事業を行ってみたいと思う。
- 子ども未来部長 現在、婚活事業は、JA柏崎と柏崎商工会議所に委託しているが、来年度以降は受託できないとの回答をいただいている。このため、今後どのように進めていくか検討中であり、参考にしていきたい。
- 委員 エイジレス講座と聞くと、年配の方が対象という印象がある。20、30歳代の方と年配の方だとニーズに違いがあると思うが、年代別に企画しているものなのか。
- 教育部長 エイジレス講座は、18歳以上の方を対象とし、43講座実施している。具体的には、魚のさばき方、ベリーダンス、フラダンス、釣りの実践編、山歩き、民謡流し・盆踊り等様々な講座がある。それぞれターゲットを絞って企画しているが、全体を通じて20～30歳代の参加は2割程度であり、比較的年齢の高い方の受講が多い実態である。いろんな御意見をいただき、講座の内容を見直し、若い方が男女問わず参加してくれるよう企画していきたい。
- 委員 市民プラザでの催しが多いが、駐車場問題はどうかにならないか。講座の受講料に加え、駐車場代を払うとなると負担が多い。この点が解消できれば、参加者も増えるのではないかと。
- 教育部長 市民プラザ向かいの駐車場は有料であるが、無料券を配るなどの対応はしていない。周辺の駐車場事情が十分ではないことは承知している。このため、周辺で無料の駐車場を探したり、小学校の駐車場スペースの夜間開放も検討したが、実現は難しく、抜本的な打開策がない状況である。

第3節 地域の活力を担う人材をつくる

基本的方向1 地域産業を担う人材をつくる

- 委員 柏崎リーダー塾では、活発にリーダー育成を行っている。今後、リーダーに呼応していく仕組みや雰囲気ができると良い。一部の研修を受けた人だけでなく、地域や会社において周りの人も巻き込んで取り組んでいけるようになってもらいたい。また、絶えずリーダー塾の成果を広報していただき、光を当ててほしい。
- 委員 ものづくりの継承について、マイナスイメージの払しょくという記述があり、そう思われる方も多いと思うが、市内事業所には、旋盤やNCを使ったり、技能検定1級を取得している女性がいることは、柏崎の大きな武器であり、地域の魅力を発信する材料となると思うので、考慮願いたい。

- 産業振興部長 以前、広報かしわざきで技能検定合格者を紹介させていただいた。また、今年度から女性活躍推進事業の一環として、女性従業員の制服を更新する際の助成制度を設けた。しかしながら、現時点で申請はない。女性から製造業の職場で働いてもらうことは重要であり、今後ともイメージアップの視点を持って啓発していきたい。
- 委 員 三条市の工場の祭典のポスターは、既存の職場イメージを払しょくする可愛いデザインであった。また、工場内でフォークリフトやドラム缶の上に立っている格好良いチラシもあった。柏崎市でも写真集のようなものを作れば良いと思うが、いかがか。
- 産業振興部長 先日、三条市にて開催された道の駅の全国大会に出席した。そこに工場の祭典の実行委員長も参加しており、工場の祭典のデザインが施されたＴシャツを身に付け、同様の袋を配るなど、いろんな活動をしていた。ものをつくるという意味で、農業も含めて工場の祭典を実施しており、従来の視点ではなく、若者から受け入れやすいビジュアル的視点を取り入れて実施していることは参考となった。また、富山県高岡市で派手な工場を作ったところ、それまで年間１万人であった工場見学者が、１０万人に増えたとの事例紹介もあった。柏崎市内の技術力は非常に高く、これに加えビジュアル的な部分も検討していきたい。また、三条市の工場の祭典の実行委員長は柏崎出身であることから、アドバイスを受けられれば良いと考えている。
- 第３節 地域の活力を担う人材をつくる
- 基本的方向２ 愛着や誇りを育む人材をつくる
- 委 員 まち歩きが全国的に行われている。市内でも実施していることを承知しているが、市の関わりを教えてほしい。
- 産業振興部長 まち歩きに関しては、商業観光課、都市政策課、文化・生涯学習課が連携し、スナダン（砂段）まち歩きを西本町、東本町周辺で実施したほか、松雲山荘や貞心尼に関わる場所を歩くコースに設定しており、民間のボランティアガイドを育成し、連携して実施している。
- 委 員 他の地域でまち歩きに参加した際、全然知らないことに気づくことができ、非常に良い機会であった。また、地元の方でも知らないことが意外にあり、取組を続けていただければ良いと思う。
- 委 員 柏崎を好きと思う小中学生の割合は高いが、引き続き柏崎に住みたいと思う小中学生の割合は低くなっている。小さい時の柏崎に対するイメージは、海も山も川もあり、自然の中で遊べて、近所の人優しく、大きな事件もなく、住みやすいと思う。また、大人もそう考えていると思う。しかし、成長するにつれ、都会に対する憧れが強くなり、柏崎に刺激が少ないなど、いろいろな理由から割合が低くなっていくのだと思う。まずは、大人が柏崎を好きだと言っていくことが必要だと思う。このため、まち歩きのように、大人も柏崎を好きになる仕組みがあった方が良い。
- 総合企画部長 住んでいる人が良いまちと思わない所に人は呼べないし、来ないと思われる。何を持って良いと思っていただくか、その切り口により、市民、ＮＰＯ、企業、行政それぞれがやるべきことを切り分けながら提示していくことが必要である。オール柏崎として、役割分担を決め、より具体的に提示していくことが、今後のシティセールスの在り方だと思っている。
- 委 員 柏崎を好きと思う割合は小学生で８割ということは、２割の小学生は好きじゃないということになる。この２割にヒントが隠れている気がするが、この内容に

	ついて分析しているか。
総合企画部長	特に分析をしていないが、100%好きというのも非現実的ではないかと思う。自分の周辺環境に対する不満から、住んでいる柏崎を好きじゃないと思う可能性もある。しかし、ヒントの一つと思われるので、留意しながらシティセールスなどに取り組んでいきたい。
第4節 定住を促す魅力あるまちをつくる	
基本的方向1 柏崎らしさを創出する	
委員	水球のまち推進事業について、市民はあまり興味がなく定着していないと思っていたが、最近よく飲食店などにのぼり旗が立っているのを見かける。以前は、市民プラザに大きな写真が掲げられていただけだったが、のぼり旗の設置により地元に浸透してきたことが感じられ、水球のまちになってきたなという気持ちになるので、良いアイデアだと思う。
委員	柏崎市内の各地区でブランド米が作られている。ブランドだけが独り歩きしていて、数量が少なく、まとまった量の出荷ができないのが現状ではないか。ブランドも大事だが、柏崎産米として価値を上げていく方が良いのではないか。
産業振興部長	柏崎産米ブランド化推進事業は、コシヒカリのうちレベルの高い米を米山プリンセスとして柏崎産米のけん引役になってもらい、柏崎のお米が美味しいことを全国的に知らせるための取組である。今年は、16事業者に取り組んでいただいたが、夏の厳しい天候により、基準に達した米は少なかったが、先日、市内で試食会を行い、来月1日には東京都内で首都圏向けの試食会を行う予定となっている。御指摘のとおり、今年の米山プリンセスの収量は非常に少なかったが、柏崎産米の全体的な底上げのために取り組んでいることを御理解願いたい。
委員	道の駅誘客宣伝事業に関連し、夏に海水浴客が、キャンピングカーや大型テントで海水浴場を占拠する問題が起きている。全国的には、シャワーが浴びられたり、トイレが充実し、車を数日間停めることができる道の駅がたくさんある。ルール作りが必要だと思うが、こうした道の駅を整備してもらえると、海水浴客のほか新たなニーズにも対応できると思う。また、水球のまち推進事業に関連し、ブルボンウォーターポロクラブが2度目の日本一になったことは、ブルボンや市など周囲の支えのおかげであると思っている。今後、全国の強豪校から有能な選手が集まってくると考えられるが、そこで問題となるのは、プールが通年利用できない点である。スケートリンクとの兼ね合いもあるが、水球のまちとして、是非とも年間を通した練習の場所の確保をお願いしたい。
産業振興部長	海水浴場では、基本的にテント設置は禁止としている。道の駅については、可能性調査を実施し、今年度中に結論を出すこととしており、今後整備を行うとなれば、来年度以降事業展開を図っていくが、現時点では結論は出ていない。昨年度末に国民休養地を閉鎖しており、現在、市内でキャンプが可能な公営施設は、じょんのび村とゆうぎであり、新たなキャンプ場の整備は厳しい。道の駅にキャンプ機能を入れるかどうかも含め、現在検討中である。
教育部長	水球専用プールの整備は、大きな課題である。現状では、冬季のアイスリンク使用の期間には、周辺自治体のプールを利用させていただいており、その支援を行っている。全国優勝し、協賛店からの御協力もいただきながら、盛り上がり高め、取組を一歩ずつ進めている。市民の盛り up を糧として将来的には整備したい思いはあるが、すぐに整備することは難しいことを御理解願いたい。

委 員	シティセールスに関連し、SNSや柏崎ファンクラブの活動について見聞きしており、成果も上げていると承知している。これらは、定住を促すことを目的に取り組んでいると思うが、定住促進に対してどのような効果や成果があったのか。また、現在の状況や今後どのように定住につなげていくのか教えてほしい。
総合企画部長	市では、シティセールスを移住定住促進計画として策定し、力を入れて取り組んでいるが、人口の社会増が目に見えている状況ではない。また、成果が見えづらい取組でもあることも御理解願いたい。まず、このまちに住んでいる人が、良いまちだと思っていただけるような取組をしないとイケない。また、行政が移住定住に取り組む理由は、市内でお金が回らないという状況があってはならないからである。企業でちゃんと経済活動が行われ、雇用の場を確保、維持していくことが現実的な課題だと考えている。こうしたことを、所管する総合企画部だけで実施することには限界があり、産業振興部、教育委員会のほか、市民の協力も必要である。イベントだけをやるだけでなく、きちんとした土台を作っていくことが重要である。このまちの経済がきちんと回ることが究極の姿であり、市役所全体で取り組んでいかなければならない。
委 員	シティセールスのイメージは、外に対する活動となり、内側の営業マンの数が足りないように感じている。個人的には、外から来たお客様などにPR活動を行っているが、シティセールスの事業と合致していないようにも思える。本日、他の委員から意見が出たように、内から固めていかないとイケない。例えば、柏崎を好きと思うアンケートを大人に実施したり、大人がまちを歩いたり、もう少し内側を向くことも必要ではないか。
第4節 定住を促す魅力あるまちをつくる	
基本的方向2 若者の定住を促進する	
委 員	地域おこし協力隊について、ただ単に募集すると、どんな人が来るか分からない。事前に意志を持って柏崎に接触してくれる人のリストがあると、募集がある際に優先的に声かけできる。不特定多数に対し募集するだけでなく、アプローチを工夫することにより、有能な人を集められると思う。また、そうした人から協力隊員の3年間で地域に基盤を作っていただき、その後、定住して自分の事業を展開していただけると良い。良い人材を集めるために、工夫をしてほしい。
市民生活部長	昨年度、地域に対し地域おこし協力隊の説明を行い、今年度は興味を示している地域と意見交換をしている。現在、4地域において来年度から5人の協力隊を受け入れたいとの意向があり、地域と地域おこし協力隊が共に活動する詳細について協議しているところである。今後、募集することになるが、協力隊員には任期後も定住していただきたいため、任用条件の内容を検討している。人材募集に当たっては、いろんなチャンネルを使いながら、面接も行い、できるだけ良い人材に来ていただけるよう工夫していきたい。
委 員	市内の大学3、4年生に対し、柏崎での就職を勧誘したとしても、それまでの間に柏崎とのつながりがないと、地元に戻ったり、大きな都市へ行ってしまう。就職活動時期に限定せず、早い段階から普段の生活の中で柏崎に親しみを感じられるチャンスがあると、就職につながっていくと思う。
産業振興部長	就職活動本番を迎える3、4年生では、企業説明会よりもインターネットを活用した就職活動が主となり、そうしたサイトに掲載していない企業には応募が来ない状況にある。雇用促進協議会にて、早い段階で企業説明会やセミナーの開

- 催を検討していきたい。
- 委員 公共交通について、このまま乗らないでいると、自分達の世代が高齢者になった際に、使いたいバスがなくなってしまう可能性があることは、大きな問題だと感じている。いろいろな利用促進事業を行っているが、その手応えがあれば教えてほしい。
- 企画政策課長 バスの利用者数は10年前に比べ30%程度減少している。様々な利用促進策を行っているが、直ちに利用者数の増加に結び付けることは難しい。今後、現在の枠組みで公共交通を維持していくことは厳しく、何らかの形で地域から関わっていただく手法も考えていきたい。

(4) その他

各委員から挨拶をいただく。

(5) 副会長挨拶 根本副会長から挨拶

(6) 閉会 企画政策課長から閉会挨拶